

「調べよう」「考えよう」～インドネシアをもっと身近に！～



		吉田 康博 宮城県亶理郡亶理町立逢隈中学校	
教科	社会科 2時間、道徳 1時間	対象	2年生 33名 3年生 33名 学年自体は継続した実践である

I 実践の目的

(1) 本校生徒の実態から

亶理町立逢隈中学校は、海岸から約4km内陸にある阿武隈川下流域の平野部に位置する学校である。東日本大震災の時には直接の津波浸水を逃れたが、町面積の約半分が浸水したため学区内にも被害にあった家庭は多い。震災から1ヶ月以上避難所としても学校が使用された。さらに沿岸部の荒浜中学校は津波被害によって校舎が使用できなくなったため、逢隈中学校の校舎を借りて学校生活を送っている。3年以上たった現在も校舎の併用が続いている。

多くの生徒は直接大きな被害を受けていないため、併設する荒浜中学校生徒との意識の差は大きい。しかし防災に関しての意識は震災を通じて高まっており、東北全体や地域の復興に関して興味を持っている生徒が多い。その意識の高まりを生かして、大きく津波被害を受けたインドネシアを「調べる」「考える」授業実践を計画していく。

(2) 開発教育の視点から

世界地理の分野の学習で生徒の多くは、先進国など自分が身近に感じられる地域への関心は高く、学習課題も設定しやすい傾向にある。しかし地理的に近いにもかかわらず、近年は東アジアと同等に日本との結びつきが強いのに、「東南アジア」への生徒の関心は薄い。さらに社会科への学習意識の低い生徒にとってはなおさらである。そこで開発途上国への関心を高めさせるような資料を選定して今回の授業づくりにつなげていきたい。

II 授業の構成

回	(実施月) 教科 時間	ね ら い	おもな学習内容
第1回	(3月) 社会 1時間	(地理分野) さまざまな地域の伝統的な生活と現代の生活文化を知る ～インドネシアを例に～	・インドネシアの生活や文化を紹介するなかで、日本との違いや共通点に気づく。 ・地域に伝わる伝統的な生活文化と、グローバル化した現代との違いについて考える。

回	(実施月) 教科 時間	ね ら い	おもな学習内容
第2回	(4月) 道徳 1時間	(大切な価値を考える) 津波被害からの「復興」 を軸にして、一人ひとりが 大切にしたい価値について 考える	・復興や発展に必要なのは何かについて自分の内面 を見つめる。また他者の意見を聞きながら確固たる 信念をもって行動する力を養う。
第3回	(5月) 社会 1時間	(歴史分野) 1930年代、世界恐慌後の 植民地におけるプラン テーション経営の変質に ついて考える。	・世界恐慌の混乱が世界中に広がる中で、欧米諸国 がとった対策と植民地の状況を調べる。 ・植民地のプランテーションの大規模化を知る。

### Ⅲ 授業の詳細

#### (第1回) 第2学年 社会科 地理分野「伝統的な生活文化と現代」

##### 授業展開

##### ①写真を見てグループごとに討議する。

- ・「スズヤ」「鈴屋」「鈴や」と読める
- ・「デパート」「スーパー」的な店
- ・でも日本ではない感じ



##### ②今日はインドネシアを例にして、生活や文化の学習をします。

写真で紹介した店は、インドネシアの地方都市「バンダ・アチェ」にある「SUZUYA」  
日本語は英語の次に身近な言葉で、インドネシアの人々の日常にもあふれています。

##### ③店内の食料品売り場の一部を紹介する。

- ・「ミロ」「同じものを並べている」
- ・「キティ」「卓球している!？」
- ・「ナルト!」「折り紙で売っている!」



現代の日本と同様な部分と、やや異質な部分に気づかせる。と同時に日本文化が浸透していることも強調して指導した。

- ・「公衆電話」「色がさわやか」
- ・「形は（日本と）似ている」



④伝統的な食生活について紹介する。

- ・「笹の葉?」「バナナがある」
- ・「木の实?」「イチゴのような?」

バナナの葉でくるんだ「もち米（インドネシア米）」を焼いた伝統料理であり、他にも多くの種類の果実が豊かに実ることを生徒に伝えた。



⑤何をしているところでしょうか。

- ・「料理をつくっている」
- ・「カレー?」「激辛スープ?」
- ・「これから大勢に食べさせるところ」

地域の人々が集まる法事のようなところにおじゃまして、アチェの伝統的な料理をいただきました。



## ⑥ところで、これは何でしょう？(歓声)

- ・「トイレ！」「シャワーがついている！？」
- ・「ウォシュレットみたいな？」
- ・「和式？」「インドネシア式？」
- ・「インドネシアのトイレはシャワー付きですか？」
- (他にも多数意見が出ました…)



先ほど紹介したのはホテルなど外国人向けの高級な施設のトイレです。一般的なインドネシアのトイレはこのような感じです。

- ・「シャワーでなくて手桶だった・・・」
- ・「でも水洗みたいな感じですか？」
- ・「トイレよりも水槽の方が立派ですね」
- ・「というか、紙がありません！！驚愕！！吃驚！！」



伝統的には水と左手を使ってきれいにするのがインドネシアのやりかたです。ふだんからトイレトーパーを使い慣れているぶん、私自身は実行するのにかなり勇気がいりました。

## ⑦伝統的な生活と、現代に共通する生活文化について考えたことを発表しました。

- ・日本みたいに新しい店があるとわかった。
- ・カレーのような料理や果物がたくさんとれることがわかった。
- ・トイレの共通点と違う点がわかっておもしろかった。

**(第2回) 第3学年 道徳「大切な価値を考える」**

## 授業展開

## ①海に面した地域の写真を紹介する。

- ・「きれいな海」
- ・「海で楽しそうにしている！先生もいます」
- ・「魚市場」「ちょっと日本にはいない感じの魚」
- ・「本当においしいのか？心配」等



## ②インドネシアも北部のアチェ州を中心に、2004年

大きな地震と津波の災害が起きました。

2011年の東日本大震災よりも7年前に、世界中から支援を受けて復興しました。

支援を受けた実態の一部を紹介します。

- ・「牛」「馬？」
- ・「芝生？」





・「野生の牛？」

住宅街の一部です。しかし…

### ③どのような住宅地でしょうか？

・「海が見える」「少し遠いです」

・「丘の上に立っている」

津波被害には二度とあわないよう、外国からの支援で高台に立てられた住宅地です。しかしなぜ牛が野放しなのでしょうか？

・「放し飼いにしている」

・「好きなききに食べるため？」

・「牛は大切にされている」



この住宅は、避難した人々から敬遠されて現在人口が減り続けている地区です。

実は水道が通っていないため、生活に大変不便だということで人口が減り続け、家畜が自然に増えています。



### ④「理想の復興」を目指すために、大切なことをみんなで考えよう！

この写真は、一生懸命に学んでいるアチェの生徒たちの様子です。

被災したこの子たちが真に望んでいるのはどんなことでしょうか？

様々な状況を予想して、以下の9つに示した価値を、ダイヤモンドランキングにしてください。

ランキングした理由も考えて、シートに記入しなさい。

(お互いに発表しあい、オープンエンドにする)

安心な家庭	安全な地域づくり	地域の発展	名誉や名声
家族や友人	多くのお金	勉強	将来の夢
			強い体と心

### (第3回) 第3学年 社会科 歴史分野「世界恐慌の影響」

#### 授業展開

①1929年9月アメリカからはじまった世界恐慌について学習する。

②世界恐慌後に欧米列強がすすめたブロック経済の本質を知る。さらに、列強の植民地の実態を予想する。

- ・「植民地の生活はさらに過酷になった」
- ・「労働時間がもっと長くなった」
- ・「開発がもっとすすめられた」
- ・「植民地が豊かになった？」

教師の発問「もし生産量や利益が上がった場合、その分は、だれの利益になりますか？」

- ・「本国だけが利益を得ると思います」



(プランテーションについて問いをすすめる)

- ・「植民地では、プランテーション農業が行われるようになった」

教師の発問「この時代は、特にどんな作物がつくられるようになったのでしょうか？」

- ・「果物？」「マンゴー」「バナナ」「確かサトウキビだったと思います」

(1920年代から価格が頭打ちになってきたサトウキビに代わり、技術革新によって天然ゴムの生産に切り替わってきたことを説明する)

- ・「ゴムが木の樹液から作られたということを初めて知りました」(一部の生徒)
- ・「東南アジアの国々では、大規模な開発が100年以上も続いていることが分かりました」



### (校内掲示の工夫)

- ・比較的多くの生徒が通行することが多い場所に、今回の派遣先の紹介記事を掲示した。アチェ州立高等学校からの記念品も併せて紹介した。



## IV 実践の成果

### (1) 本校の実態から

「復興」に関する意識の高まりを生かした実践を行うことができた。特に4月の道徳の時間では、多くの生徒から多様な意見が出たこと、「復興」にむけて前向きな姿勢を感じる事ができた。

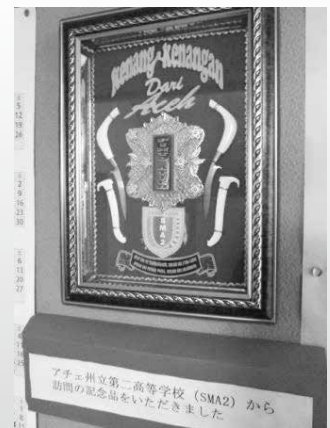
町の復興について大枠は示されているものの、今後のはっきりした見通しが立っていないのが現状である。

その中でも生徒自身が自ら考え、行動する大切さを養う実践にすることができた。

### (2) 開発教育の視点から

近年、日本との結びつきが非常に強まっている「東南アジア」への生徒の関心は薄い、という実態を打破しようと授業を組み立てたことについては、成果が上がったといえる。授業後の生徒の感想からも、これまで知らなかったことが多かったという新鮮な驚きが多く見受けられた。

社会科への学習意識の低い生徒にとっては特に社会科の実践による、開発途上国への関心が高まるような資料の選定が功を奏したと感じられた。



## V 課題

### (1) 本校の実態から

「復興」に関する意識をもっと高めさせるような実践が求められている。特に、地域の復興にむけて培った前向きな姿勢が、生徒自身の実践にむすびつくような指導を工夫する余地があるように思う。被災地で教育活動を行う我々は、常にその責務を負っていると痛切に感じている。

### (2) 開発教育の視点から

「東南アジア」への関心を高めさせるような授業の組み立ては良かったが、そこからさらに

何を学び、今後どの部分に生かしていくかというところまで深く掘り下げていく必要が求められている。

特に社会科への学習意識の低い生徒にとっては、本実践によって開発途上国への関心が高まるような資料選定ができたといえる。しかしその部分だけの評価にとどまることなく、たとえば今後の「町の復興」に関する問題点や課題に踏み込んだ発問や授業構成の工夫があれば、さらに当初の目標に近づいていくといえる。

### 関連する学習指導要領の内容と文言

#### 社会（地理的分野）

##### 2 内容

###### (1) 世界の様々な地域

###### イ 世界各地の人々の生活と環境

世界各地における人々の生活の様子とその変容について、自然及び社会的条件と関連付けて考察させ、世界の人々の生活や環境の多様性を理解させる。

#### 社会（歴史的分野）

##### 2 内容

###### (5) 近代の日本と世界

ア 欧米諸国における市民革命や産業革命、アジア諸国の動きなどを通して、欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを理解させる。

オ 第一次世界大戦の背景とその影響、民族運動の高まりと国際協調の動き、我が国の国民の政治的自覚の高まりと文化の大衆化などを通して、第一次世界大戦前後の国際情勢及び我が国の動きと、大戦後に国際平和への努力がなされたことを理解させる。

#### 道徳

##### 2 内容

###### 1 主として自分自身に関すること。

(4) 真理を愛し、真実を求め、理想の実現を目指して自己の人生を切り拓いていく。4  
主として集団や社会とのかかわりに関すること。

(8) 地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬と感謝の念を深め、郷土の発展に努める。

### ●出典・参考図書

- ・池端雪浦 編「世界各国史6 東南アジア史Ⅱ 島嶼部」山川出版社
- ・高谷好一 著「東南アジアの自然と土地利用」勁草書房
- ・吉川利治 編「近現代史のなかの日本と東南アジア」東京書籍